



## 10. キーワード

- |           |              |        |            |
|-----------|--------------|--------|------------|
| (1) フロリゲン | (2) アンチフロリゲン | (3) イネ | (4) 茎頂分裂組織 |
| (5)       | (6)          | (7)    | (8)        |

## 11. 現在までの達成度

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

計画した実験はほぼ順調に進んでいる。フロリゲンの直接の標的遺伝子と予想されるOsMADS15遺伝子プロモーター上でHd3aが複合体形成している領域をChIP法で明らかにする実験は予備的な成果が得られており、実験条件を最適化しつつ継続する。FTIP1ホモログの解析については、より効果的にノックダウンされたRNAi植物を選抜し、解析を続ける。

## 12. 今後の研究の推進方策

(今後の推進方策)

前年度に作製した形質転換イネの解析を引き続き行う。RCNについて、種々の機能領域に変異を導入したGFP融合タンパク質を維管束特異的プロモーターで発現させる形質転換イネを用いて、茎頂への移動を共焦点顕微鏡にて観察することで、その長距離移動に必要なドメインを明らかにしていく。シロイヌナズナのフロリゲンFTの移動を制御するFTIP1のイネホモログについて、Hd3aやRCN3に結合できるアイソフォームを前年度に同定しているため、それらの茎頂分裂組織での発現の詳細や、Hd3aやRCNとの共局在解析を、プロモーターGUS形質転換イネやRFP融合キメラ遺伝子導入イネを用いて行う。前年度のGFP形質転換イネの結果から、RCNやHd3aの維管束から茎頂への細胞間移行が、非選択的な細胞間移行経路によっても行われている可能性が示唆された。そのため、ひきつづき、GFP形質転換イネの茎頂分裂組織におけるGFPの詳細な局在解析を行う。

## 13. 研究発表(平成26年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

著者名		論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					

(学会発表) 計(1)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名		発表標題	
鈴木美穂、田岡健一郎、石川理恵、島本功		イネTFL1ホモログRCNの花序形態形成制御における機能	
学会等名	発表年月日	発表場所	
第56回日本植物生理学会年会	2015年03月16日～2015年03月18日	東京農業大学(東京都世田谷区)	

(図書) 計(1)件

著者名		出版社	
Hiroyuki Tsuji, Ken-ichiro Taoka		Elsevier	
書名		発行年	総ページ数
The Enzymes vol. 35		2014	284 (113-114)

## 14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計( 0 )件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.備考

--